



# 新着図書案内 5月

New accessions to a library of May

文芸

Literature



## 『氷』 アンナ・カヴァン // 著 ちくま文庫

恐ろしくも美しい週末のヴィジョンで、世界中に“冷たい熱狂、を引き起こした伝説的名作。

## 『ソラリス』 スタニスワフ・レム // 著 ハヤカワ SF 文庫

“All Time Best SF1位、透徹した視点で世界と宇宙を見つめた、知の巨人が遺した普及の名作



## 『過ぎ去りし王国の城』 宮部みゆき // 著 KADOKAWA

ネグレクト、スクールカースト、孤独や失意…。気まぐれな悪意と暴力、蔑みと無関心が、いたいけな魂を凍りつかせる。現代の闇と光をあぶり出す冒険ファンタジー。

## 『武道館』 朝井リョウ // 著 文藝春秋社

本当に、私たちが幸せになることを望んでる？恋愛禁止、スルースキル、炎上、特典商法、握手会、卒業…発生し、あっという間に市民権を得たアイドルを取りまく言葉たち。それらを突き詰めるうちに見えてくるものとは—



## 『ラプラスの魔女』 東野圭吾 // 著 KADOKAWA

作家デビュー30周年記念作品。東野圭吾が小説の常識をくつがえして挑んだ、空想科学ミステリ。



## 『家族という病』 下重暁子 // 著 ちくま文庫

“一家団欒、という言葉の呪縛にとらわれている「家族」。その実像をえぐりつつ、家族とは何かを提起。



## 『ルポ保育崩壊』 小林美希 // 著 岩波新書

問題は待機児童だけじゃない……。子どもを預けた その先で、何が起きているのか？



## 『知的生活習慣』 外山滋比古 // 著 ちくま新書

『思考の整理学』の著者による、知的創造のヒント。90歳をこえた知の巨人が語る“賢い生き方、



## 『増補日本語が亡びるとき』水村美苗 // 著 ちくま文庫

言語学の“新たな古典、が大幅補訂で文庫化！！われわれにとって言語とは何か？



## 『帰還兵はなぜ自殺するのか』

デイヴィット・フィンケル // 著 亜紀書房

何も知らないまま戦争をはじめようとする人がいる…。戦争で壊れてしまった男たちとその家族の出口なき苦悩に迫る衝撃のレポート！

※ここで紹介している新着図書は一部です。新着図書の一覧はHPか図書室で確認して下さい